

<b>2. 事業の概要と成果</b>	
(1) 上位目標の達成度	<p>達成</p> <p>本事業により、5,000 m のコミュニティ道路が補修された。道路補修のためのグループが組織化され、道路整備技術を身に着け今後の維持管理計画も策定された。地域開発局のエンジニアを本事業地へ受け入れ、道路整備技法も共有した。また、地域開発局職員と本事業で組織化されたグループとで今後の地域の道路整備計画について協議がなされた。</p>
(2) 事業内容	<p><b>活動1：道路整備技術普及及び維持管理計画研修</b></p> <p>(1-1) グループリーダーへの施工に関する研修  (1-2) 実施工とグループメンバーへの施工に関する研修  (1-3) 維持管理計画及びコミュニティ組織強化研修  (1-4) 各地区内のコミュニティ、僧侶へ向けた現場視察、道路整備技法についての研修  (1-5) 交通安全研修</p> <p>(事業地)</p> <p>I. <u>エーヤワディ地域ピャポン地区ケーンヨンタン村</u>  補修延長1, 500 m  II. <u>シャン州ペコン地区ハンピュー村</u>  補修延長1, 200 m  III. <u>マグエ地域シンバウエ地区タマ村</u>  補修延長2, 300 m</p> <p><b>活動2：道路整備に特化したCSOの結成、研修</b></p> <p>(2-1) 各地区での道路整備に特化したCSOの結成  (2-2) CSO 運営管理強化研修  (2-3) CSO 実地メンバー研修</p> <p>(事業地)</p> <p>I. <u>エーヤワディ地域ピャポン地区</u>  II. <u>マグエ地域シンバウエ地区</u>  III. <u>ネピドー連邦領レイウエ地区</u></p> <p><b>活動3：コミュニティ組織強化研修及び維持管理計画研修</b></p> <p>(事業地)</p> <p>I. <u>マグエ地域チャウ地区</u>  II. <u>カレン州パアン地区・ラインボエ地区</u></p> <p><b>活動4：地方政府、地域開発局 (DRD) エンジニアへの各事業地の報告や道路整備技法共有</b></p> <p><b>活動5：ミャンマーで活動する他援助団体への研修</b></p>

(ここでページを区切ってください)

(3) 達成された成果

**活動1：道路整備技術普及及び維持管理計画研修**

(1-1) グループリーダーへの施工に関する研修

施工開始に伴い、グループリーダーとともに①対象道路の現状と問題点を把握、現地調達可能資材を調査し、②策定した計画について道路沿線住民間との合意を得た。

さらに、グループリーダーが道路整備を行う上で指導的な立場となれるように③労務人員管理、資機材の管理・施工記録に関する研修を行った。

エーヤワディ地域、シャン州、マグエ地域の事業地リーダー及びリーダー補佐は当研修内容を理解し、本事業において指導的な立場で道路整備を行えていることが確認された。

(1-2) 実施工とグループメンバーへの施工に関する研修

グループメンバーが本事業を通して下記①～③に示す事柄を習得できるように研修を行った。

- ① 策定された計画に基づいて資機材を調達、保管する。
- ② グループリーダーとグループリーダー補佐が施工監督し、住民参加による施工を行う。
- ③ メンテナンス工事を実地する。

それぞれの地域での研修参加人数と日数は以下の表の通りである。

村名	ケーヨントン	ハンピュー	タマ
リーダー（人）	5	6	5
リーダー補佐（人）	5	6	5
工事研修参加者（人/日）	50	20	40
工事研修日数合計（日）	90	100	120
施工延長（m）	1,500	1,200	2,300

グループメンバーは研修内容を理解し、適切に道路整備を行えていることが日本人専門家及び現地エンジニアによって確認された。施工延長としては、ケーヨントン村では1,500 m、ハンピュー村では1,200 m、タマ村では2,300 mの道路補修が完了した。

(1-3) 維持管理計画及びコミュニティ組織強化研修

それぞれの事業地において、コミュニティ自身が今後も持続的に維持管理を行えるように下記①～③の研修を行った。

- ① 施工後の継続した維持管理手法や雨季における問題箇所の把握、記録に関する研修
- ② 上記①をふまえた維持管理計画の立案に関する研修
- ③ コミュニティが有効な資金運用を行うための、会計処理能力研修

当研修を行うことにより、事業終了後も継続してコミュニティが道路の維持管理を行うことができる。これは、「持続的な開発」につながると思われる。

また、H27 年度事業地である下記①～③の地域において、コミュニティで道路維持管理を計画、実施し、道路品質を保っていることが確認された。

- ① エーヤワディ地域ピャポン地区ミンラス村
- ② シャン州ペコン地区ノットン村
- ③ マグエ地域シンバウエ地区ミンカン村

本年度事業地のコミュニティと過去事業地のコミュニティが一堂に会し意見交換できる場を設け、本年度事業地のコミュニティは今後の維持管理計画に役立てることができた。

(1-4) 各地区内のコミュニティ、僧侶へ向けた現場視察、道路整備技法についての研修

事業地周辺村のコミュニティへ向けて、道路整備技法についての研修を行った。(参加コミュニティグループ計 14 箇村、参加者 100 名)

(1-5) 交通安全研修

道路状況が改善されたことによりバイク、車両の通行台数や通行速度が増加することが予測される。事業後も道路を安全に通行してもらうため、走行速度を落としヘルメットを着用するといった交通マナーに関する交通安全研修を行った。また、路肩から転落することがないように端部を示すポールを特定の箇所を設置し、住民の安全を交通安全に配慮した。

### 活動2：道路整備に特化した CSO の結成、研修

(2-1) 各地区での道路整備に特化した CSO の結成

CSO はこれまでの事業地や周辺村の当団体の研修参加者により構成される組織で、道路整備及びそれに伴う業務を行える。地域開発局などの行政や他ドナーと協働での地域道路整備実施を目指して、下記 1)～2) の活動を行った。対象地域は①エーヤワディ地域ピャポン地区②マグエ地域シンバウエ地区③ネピド一領レイウエ地区である。

- 1) DRD が CSO と連携し農道を整備することの実現に向けて、CSO に求められる能力や手続きについて、DRD と協議を行った。
- 2) CSO の将来像を対象コミュニティと共有するとともに、参加意志のある者を選抜した。

(2-2) CSO 運営管理強化研修

道路補修工事を担当する組織として技術面、運営管理の面から研修を行った。研修対象人数と研修日数を下記表に示す。

地域	地区	研修人数	合計研修日数
エーヤワディ	ピャポン	15	6
マグエ	シンバウエ	6	6
ネピド一	レイウエ	14	6

(2-3) CSO 実地メンバー研修

研修参加者に対して、実際の施工現場において測量、現場指導、材料選定等の研修を行った。エーヤワディ地域、マグエ地域については本年度道路整備事業地にて、ネピドー連邦領においては、付近でデモンストレーションを実施し、研修を行った。研修対象人数と研修日数を下記表に示す。

地域	地区	研修人数	合計研修日数
エーヤワディ	ピャボン	15	84
マグエ	シンバウエ	6	84
ネピドー	レイウエ	14	84

CSO と行政の協働の道路整備実施のためには、CSO を正式な社会組織としてアソシエーション登録することが有効であることが分かった。登録に必要な組織人員、組織概要などを記す登録書を行政担当者より入手し、CSO メンバーと共有した。次年度事業での組織登録に向けて書類作成を進めている。

CSO が結成し組織登録され、さらに道路整備や組織運営管理の能力が向上することで、行政と連携して道路整備を行うことが期待される。CSO が安定し、上記のような官民連携での事業が実施されれば、「持続的な開発」にもつながる。次年度からは、対象地域を絞りまずはモデルケースを示すことを目標とする。

### **活動3：コミュニティ組織強化研修及び維持管理計画研修**

H25年～H27年に本NGO連携無償資金協力事業で事業を行ったマグエ地域チャウ地区及びカレン州パアン地区・ラインボエ地区にて、道路整備技術の普及と定着のために維持管理計画研修を行った。本研修では、実際に事業道路の劣化箇所の補修を行うとともに英語とミャンマー語を併記した道路整備維持管理計画マニュアルを配布した。研修参加者は本研修内容を理解した。

### **活動4：地方政府、地域開発局（DRD）エンジニアへの各事業地の報告や道路整備技法共有**

ネピドーDRD事務所にて、土のう工法についての説明を行った。説明には留意事項や使用例をまとめた資料を用いた。

1月にはマグエ地域の実際に事業を行っている地域にて、事業報告及び道路整備技法の共有を目的としたワークショップを行った。参加者は地域開発局エンジニアを含め計60人であった。

### **活動5：ミャンマーで活動する他援助団体への研修**

ミャンマーで活動する国際NGO団体 Good Neighbors International の要請を受け、先方の事業地にて土のう工法についての説明、及び道路状況調査を行った。また、当団体からの研修を受けて技術を習得したCSOメンバーも先方の事業地へ赴き、道路整備の方法やコミュニティの運営管理の仕方について説明した。Good Neighbors Internationals はすでに道路整備を開始しており、土のう工法を用いた住民参加型の道路整備が行われている。

日本のミャンマーで活動するNGOに向けても当団体の活動紹介に関するプレゼンを行った。また、NPO法人 AMDA (Association of Medical Doctors of Asia) 職員を当事業地でのワークショップ

	<p>プに招き、さらに詳しい説明を行った。</p> <p>活動1～5についてさらなる各地域の具体的な成果について、添付資料「成果リスト」にまとめた。</p> <p>本活動により道路状況が改善されることで、作物の買い付け人が村に來たり、村人が雨季でも市場に出られるようになり、農村民が安定的に収入と食料を得られるようになった。これらの成果は、持続可能な開発目標（SDGs）の「目標2：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」の達成につながる。</p> <p>また、道路アクセスが改善することにより、雨季にも学校に行ける子どもが増加することが見込まれる。これは、「目標4：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成につながる。</p> <p>さらには、当方の活動はミャンマーの中でも未開発の農村地域を対象としている。農村民が道路アクセスの改善により、生活が豊かになりより発展することで「目標10：国内および国家間の不平等を是正する」の達成に貢献すると考えられる。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業では、事業直後及び事業終了後も継続して維持管理研修を実施している。これは、事業後もコミュニティのみで維持管理を施し、事業道路の良好な状態を保持できるようにするためである。</p> <p>また、本年度より、CSO 結成に向けた活動を行っており、事業を行った道路がCSOにより適切に管理、品質を保たれることが期待される。CSOが結成され、組織として安定することで、行政と連携して道路整備あるいは維持管理を実施することも目指しており、実現すれば地域住民の更なる発展にもつながる。カウンターパートである地域開発局も本事業により結成されたCSOについては非常に注目している。また、地域住民で構成されるCSOが自立して活動を行うことにより住民の自信にもつながり、持続的な発展を行えると考ええる。</p>